

尾崎地区

地 勢、

千種川下流域の東岸にあり、宮山によって洪水の難を逃れた場所が尾崎の中心地である。宝崎神社のノット岩の存在は、このあたりがかつて流紋岩の岩盤が露頭していたことを想起させ、千種川の運び込んできた土砂とその後背湿地の形成によって生活地盤ができ、人々の居住が始まったことが推定される。

現在の尾崎地区に広がる新興住宅地は、かつての東浜塩田であり、北にある石指（イッサシ）の山を削って大造成がなされたもので、その景観は近代になって大きく変貌したが、水路や地名に名残を残す。一方、宮山周辺の旧市街地については、一部に街路整備が行われているものの、江戸時代とほとんど変わらない町割が残されている。

表 21 尾崎地区 年表

時 代	年 代	で き ご と
縄文時代後期 古墳時代後期 中 世	約4,000年前	瀬戸内海沿いの猪壺谷遺跡で縄文土器出土
	6世紀後半～7世紀	瀬戸内海沿いに尾崎・大塚古墳が築かれる ナンサマ・イッサシ山麓で中世雑器
近 世	室町時代	宝専寺、如来寺、八幡神社など、社寺の縁起
	応永13(1406)年	八幡宮を鳥撫の銭戸から遷宮の伝承
	天正15(1587)年	宇喜多忠家、坂越・高野・中村・尾崎を地方知行か
	慶長8(1603)年	垂水半左衛門、赤穂代官として赴任、尾崎に居を構える
	慶長10(1605)年	八幡宮を鳥撫の銭戸から遷宮ともいう（「播州赤穂郡志」）
	寛永3(1626)年	岡田弥兵衛が尾崎に入り、赤穂に製塩技術をもたらした伝承
	正保2(1645)年	浅野長直、尾崎八幡宮に社領を寄進
	正保3(1646)年	東浜塩田干拓開始
	寛文7(1667)年	唐船大土手の築造、翌年唐船塚の干拓始まる
	寛文11(1671)年	田淵家、尾崎村塩問屋に名を連ねる
	延宝元7(1672)年	田淵家、尾崎村より御崎新浜村へ移る
	延宝7(1679)年	赤穂八幡宮が大火、長矩が八幡宮本殿の再建開始
	元禄8(1695)年	尾崎、坂越と山論はじまる
近 代	元禄14(1701)年	大石良雄が赤穂城引渡し後に、おせどに仮滞在する
	宝永3(1706)年	尾崎村明細帳
	正徳3(1713)年	尾崎村で出火、311軒焼失、赤穂八幡宮の鳥居1か所焼ける
	寛政7(1795)年	俱会塔が建立される
	文化6(1809)年	大坂送り塩の専売制開始(1821年まで)
	文化9(1812)年	赤穂塩田、休浜同盟に参加
	文政6(1823)年	製塩に石炭焚き開始
	嘉永3(1850)年	坂越・尾崎村間で山論起こる
	安政4・文久3 (1858～1863)年	火事が続き、5年間で約420軒焼失
	明治34(1901)年	今井三造、尾崎村に私立今井学校を開設
	明治38(1905)年	塩専売制施行
	明治41(1908)年	尾崎・大塚古墳で最初の埋蔵文化財発掘調査が行われる
現 代	大正13(1924)年	赤穂東浜信用購買利用組合発足
	昭和4(1929)年	塩田の第二次整備始まる、一部廃田となる
	昭和10(1935)年	尾崎八幡宮前から新浜に通じる県道拡張工事第一期竣工
	昭和12(1937)年	赤穂、塩屋、尾崎、新浜が合併して大赤穂町になり、尾崎は赤穂町尾崎となる
	昭和13(1938)年	赤穂大橋完成する
	昭和15(1940)年	東浜合同煎熬工場が完成、上荷舟が陸軍への徴用により消滅
	昭和23(1948)年	普門寺の木造千手観音坐像が国宝になる
	昭和25(1950)年	東浜合同煎熬工場が全焼
	昭和32(1957)年	御崎から坂越の海岸が瀬戸内海国立公園に指定される 普門寺千手観音坐像が国指定重要文化財に指定される 普門寺、加里屋から尾崎に移される
	昭和35(1960)年	流下式塩田への転換工事完了
昭和44(1969)年	赤穂海水工業(現在の株式会社日本海水)設立	
昭和45(1970)年	尾崎地区土地区画整理事業組合の設立	
昭和46(1971)年	新赤穂大橋が完成	
昭和47(1972)年	赤穂東浜塩業組合が製塩を中止、赤穂化成(株)設立	
平成5(1993)年	赤穂東浜塩業組合解散	
平成18(2006)年	赤穂海浜大橋が完成 県道周世尾崎線(尾崎トンネル)開通 尾崎地区都市計画に基づく街路整備開始	

歴 史

尾崎地区には海岸沿いに縄文時代の猪壺谷遺跡や古墳時代の尾崎・大塚古墳が見られるが、その背景は明らかでない。中世も社寺の縁起や伝承によって歴史が語られているにすぎず、明確な歴史が明らかになっているのは江戸時代以降である。

江戸時代になり赤穂を治めた池田家の代官、垂水半左衛門をはじめ尾崎に居を構えたといひ、慶長10(1605)年には赤穂八幡宮を西部地区の銭戸からこの地に遷したともいう。こうした背景には塩田開発があり、寛永3(1626)年には池田家の家臣岡田弥兵衛が製塩技術を伝えたという。

東浜塩田の大規模な干拓開始は、浅野長直が赤穂に入封してすぐの正保3(1646)年といわれており、御崎新浜村とともに一大生産地となった。